

アメリカ政党とセクシヨナリズムについて

間 登 志 夫

- 一 セクシヨナリズムとしての政治
- 二 二党制とセクシヨナリズム
- 三 セクシヨナリズムの採用根拠

さきに(関西大学、法学論集、第一〇卷、第五号)述べたごとく、アメリカ政党の特性には、二党制とか、指名手続の異常な発達とか、ボス制度とか、圧力政治とか、セクシヨナリズムなどがあるが、本稿においては、セクシヨナリズムについて、とくに、セクシヨナリズムとしての政治とか、二党制の継続とセクシヨナリズムとの関連とか、セクシヨナリズムとしての政治が採用されている根拠などに重点をおいて論を進めたい。

一 セクシヨナリズムとしての政治

土壌とか風土とか地勢 (topography) とか天然資源などの地域的な条件は、人間の生計手段および生活様式に影響をあたえる。ある人々がグループとして一定の地域において同種の職業的な営みを続けるとき、ある特定の慣習

(customs) および民習 (folkways) を発展させる傾向がある^①。また、そのグループには人種的とか民族的とか社会的とか経済的などの利益が集中し、それ故、そのグループのセンチメントに地域的な感情を加える^②。そのようなグループでは、その地域的な感情が地域的な条件とか慣習および民習とかにさらに深く根ざしていき、グループ活動がより意義あるものとなる。さらにまた、そのグループは、多種の利益をめぐる多様な問題に関するグループの特殊な利益という点において、他の地域のグループに反対して地域的な感情のもとに熱ぞろいしている。すなわち、グループ間には、地域的なラインに沿った頻発的にしてしかも継続的なグループ感情と結合した、グループ利益の裂開が存在するのである。かかるグループ利益の対立は、まず、州の政治において、異った地域の人々の間における闘争としてしばしば起つてくる。ときに、本質的に重要な問題は危機を伴う。ときにまた、政策に関するものとして認められないような問題もある。例えば、ある州の北部出身のある候補者は、われわれの一人を知事としてもつために自分を選ぶことを自地域 (home territory) の人々にアピールするであろう。地域的な利益とか忠誠にたいするそのようなアピールならびに異った地域の人々の間におけるそのような摩擦などはありふれたことである。つぎに、国家の政治において、国家の異った数個の大地域の人々の間における大きな闘争はさらに大規模ではあるが、本質的には同種のものなのである^③。

一七世紀以来、セクシヨナリズムと地理的な環境は、北部アメリカの歴史と政治において重要な役割を演じてきた。アメリカにおいて大きなセクシヨンのおのおのは、それ自身の歴史をもちそして明確な政治的ならびに経済的な特徴をもっている。一九世紀には、奴隷制度とか、関税とか、西部の土地の処分とか、通貨とか、合衆国の性格など一連の重要な問題について、異ったセクシヨン間に対抗およびそねみが発生した。それらは、闘争とか、妥協とか、

流血などなしには、解決されなかつたのである。これらの問題は二十世紀までもちこまれた。このようにアメリカの国家的な政治の発端以来、議会および大統領とか、さらに連邦裁判所さえ、セクシヨンの利益を和解するという大仕事に直面してきたのである。^④

ところで、セクシヨナリズムという言葉は、地方主義 (Regionalism) に伴う地方的な偏見の意味のほかに、官僚制組織内部の派閥的な割拠主義の意味をもっている。後者は、とくに国家統治機関の内部において、ある機関あるいは専門仲間が共通の感情とか利益に結ばれるときこの機関あるいは専門仲間をセクシヨンと称し、各セクシヨンが自己の権限を固執して協調しない場合に、これをセクシヨナリズムと呼んでいる。これは、官僚主義の一つの属性で、繩張り意識ともいわれている。さらに広義のセクシヨナリズムは、同じセクシヨンによつてではなく、出身地とか、学閥とか、出身身分の同一性、および親分・子分関係などによつて形成される。^⑤ しかしながら、本稿でいうセクシヨナリズムが、アメリカにおいて特殊なニューアンスをもつて使用されている意味のそれであることはいうまでもない。すなわち、ある一定の地域における人々がグループとして共通の地域的な感情ならびに利益で結ばれるときこの地域をセクシヨンと称し、マクマオンも、他の地域の利益に対立してある地域の利益を全体として進めるために地域内におけるあらゆる階級が提携する政治方式であるとセクシヨナリズムを定義しているように、^⑥ 他のセクシヨンの利益に対立してあるセクシヨンが一体となつてその特殊な利益を主張する場合、この傾向をセクシヨナリズムというのである。セクシヨナリズムは、国家における北部と南部とか東部と西部などのように、国家内における團結せる若干の州に適用されるのみでなく、しばしば北部と南部のカリフォルニアとか東部と西部のテネシーなどのごとく、ある一定の州の境界内における同種の相異を表示するにもまた使用されている。

かようなセクションナリズムは、土壤、風土、地勢、天然資源などの地域的な条件とか、また、人種的、民族的、社会的、経済的などの原因などによつて育成されてきたけれども、そのもつとも重要な基礎はなんといつても、経済的な利益である^⑧。しかし、いうまでもなく、製造業がある地域に、また、小麦栽培が他の地域に、また、綿花栽培が第三のそれに集中されているという単なる事実のみによつて、セクション間の闘争が生じるとは思われない。政策的な政策の問題が起つてきて、それが——ある地域の経済的な利益は有利に他の地域は不利に——おのおの異つた影響力を異つた地域にあたえるとき、換言すれば経済的な利益が政治的な利益へと発展するときのみ、セクション間の闘争が生れるのである。この闘争の強度は、あるセクションの経済的な利益とそのセクションにたいする忠誠からくるグループの勢力および団結力とが融和されているという事実によつて、増加される。この意味において、セクション間における摩擦のもつとも重大な基礎は、前述のごとく、明らかにおのおの異つたセクションの異つた経済的な利益に見い出される。また、これは、順次、前述の、異にしているセクションにおける人種的、民族的、社会的な原因とか地理的な賦与条件などからきわめて大きく発達したのである^⑨。

セクションナリズムの一方の極端な場合は、例えば、奴隷問題とか関税問題などをめぐつて南北戦争にまで発展した南北両セクションの対立にそのもつとも近似的な型相を見ることができるよう、南部の人々が南部と向い合つて同様に結合している北部の人々にたいしてあらゆる問題について一体になつて、絶体的なセクションの共同一致の状態である。おのおのセクションの利益は、反対のセクションのすべての階級と種類の人々にたいする境界において鮮明に分離されているあらゆる階級と種類の人々によつて共有されている。しかしながら、このようないわば強いセクションナリズムによるセクションの凝集力とかセクションの間の分裂などが、実際に運営されている政治におい

てめつたに起らないことはいうまでもない。より少ない程度のセクションナリズムは、一つあるいは二、三の問題について地理的な地域間における永続的な相違によつて示されるであろう。おのおののセクションにおけるほとんどの人々は、特殊な問題については、他のセクションにたいして共通の行動根拠を見い出すであろうが、他の事柄に関しては、政治的な同盟は、おそらくセクションの境界を横断する階級的な線において結ばれるであろう。例えば、小麦産出のセクションにおける銀行家とか農民とか労働者などは、小麦に影響をあたえる政策については、すべての邪魔者に反対して結合するであろう。しかし、他の事柄については、小麦産出のセクションの銀行家は、あらゆる地域の労働者と向いつている他のすべての地域の銀行家と結合するであろう。この種の弱められたいわば弱いセクションナリズムは、地域的なラインに沿つてすべてを包括している極端な場合よりも普通なのである。産業主義 (Industrialism) の発達とか、改良された輸送の手段とか、移住および人口再分布とか、労働者の組合主義の普及とか、生活標準および教育水準の漸加な高度化などが、強くて古いセクションナリズムを破壊する原因になつており、それらのすべては、地域的な分裂の抹消とか、セクションナリズムの感情の消散とか、地方的な見解の変更などに役立つているのである。^⑩

このように旧くて強いセクションナリズムが政治における若干の重要な新しい勢力によつて破壊されているという事実ににもかかわらず、セクションは、いまだに政治的な諸態度の形成およびそれらの発展において卓越した要因なのである。政党にたいする忠誠 (allegiance) は、しばしば惰性 (inertia) に関する事柄であり、最小の抵抗線であり、また偏見でもある。従つて、政治に消極的な関心しかもたない人々は、そのセクションの忠誠 (loyalty) を獲得してそのセクションで優勢を占めているいわゆる社会的に正当な政党を受け入れたり、またそのセクションの利益と結合してそのセクションにおいて支配的な政党のいわゆる政策に同意したりする傾向がある。メインとかニューハンプシア

とかヴァーモントなどの州に成長すると、共和党のレットルを採用することがもつとも普通であり、南部においては、民主党が受け入れられている。^⑧それ故、セクションナリズムの政治を理解するには、セクション間における政党との関係を精しく検討する必要がある。アメリカの確立において特殊な地域としてのセクションは、普通のおのおのに適した経済的な活動の性格に従つて特別の経済的な利益を必要としたのであり、そしてその国土(country)がおのおのそれ自身の政治的な利益をもつ自然的な地方単位としてのセクションの基盤になつたのである。かくして、アメリカは、「セクションを以て米国史を支配する各種の勢力の形成に与つて力ある根抵の区分であるとし、各州 States の区分に比すれば遙に重要にして経済的、社会的、政治的に有意義である」とセクションナリズムの重要性を最初に指摘したターナーによつて主張されたように、フランスとかドイツなどの国と違つて、……大規模な地方の地理と密接に結びついている経済的な利益の衝突という問題をもつに至つた。全フランスあるいは全ドイツに匹敵する諸地域を覇つて、農業の類型か製造の類型かのいずれかがここでは決定的に優勢であつた。^⑨従つて、政党には、このような諸セクション間における統一の維持という問題があつたので長期にわたり、二大政党のいずれも、その堅固な中心部としてその大きなセクションの忠誠をもつていたが、順次、政策の変遷が許すかぎりその勢力の脊柱をあたえていたそのセクションの利益を促進させようとしたのである。伝統的に、民主党は農業的南部セクションの政党であつたし、共和党は製造業的北部セクションの政党であつた。今世紀の半ばまでにその分割の線は南部セクション対北部セクションのそれよりもはるかに複雑なものになつてしまつていゝとはいへ、南北戦争以来固持してきたその型相の影が薄くなつてゐる訳ではない。^⑩大きなセクションの分割は、部分的には政治的なプログラムに関係した闘争を伴う経済的な相違によつてゐる。逆に、経済的な特殊化は、少くとも部分的には異なつてゐるセクションの地理的な特性から生じて

いる。綿花の栽培および関連ある農業は、南部を支配しさらに政治的な見解の等質性に貢献している。大統領選挙において民主党が窮地にありしかもその最後の防壁に追い込まれたとき、残されたすべてのものといえは南部選挙民の投票であつた。一九二〇年の大統領選挙において、民主党の勢力が低点に下落したとき、綿花諸州の南部セクションは民主党の選挙投票のほとんどを備えたのである。④ 他方において、共和党の推進力は、異つたしかもより種々様々なセクションの利益によつて起されている。北東部の製造業の集結がその政党のための土台を立てたのである。雇主集団が工場労働者の実質的な数の信用と忠誠を保有しているかぎり、共和党は投票と運動資金の二つとももつていたのである。しかし、経済的な地理に基づいている利益の衝突のみが民主党と共和党との分裂という機会をあたえたのではない。共和党の堅固な中心部に包含されていたものは、元来奴隷から解放されているという区別によつて南部とは異つていた中西部および北東部セクションの農民であつた。北部セクションと南部セクションのあらゆる階級の人々を共和党と民主党の旗じるしに結びつけている筋骨の勢力に関する最後の評価においては、おそらく南北戦争によつて鍛え上げられたセクション的な愛国心に大きなウエイトが置かれなければならないであろう。これらの忠誠は、長い間血染のシャツと反抗者の喚声によつて維持されてきている。だが、情感の泡沫の下部には南北戦争の前後を通じて実質的なセクションの経済的な利益が支配していた。一九一六年の選挙におけるごとく、共和党は、その要塞に後退したときにも、主として製造業の中心セクションおよび中西部セクション、すなわち、偶然一八六一年の合衆国と大体同じ広さであつた地域を支配したのである。南部および北部セクションは数十年に渉り民主党および共和党の選抜突撃隊(stock troops)を備えたけれども、以上に述べてきたことにはカリカチュアの要素が含まれている。すなわち、おのおのの大きなセクションのなかには多くの補助的なセミ・セクションが存在していたのである。しかも南北

戦争の後合衆国に加つた西経一〇〇度の西にある大陸の半分がセクションの利益の数と種類とを増すことになつたため、旧南部および旧北部セクションはともに単独で国家を支配し得なかつた。なんらかのセクションナルな相異の妥協を必然的に必要としたセクション間の結合が、多数 (majority) の形成され得る前に行われねばならなかつた。選挙に勝利を得て統治するために、政党は、大統領および議会の多数を当選させるのに十分な投票勢力をもつて多くのセクションと一体になることを余儀なくされたのである。同じ政党の旗じるしのもとに集められたこれらセクションの利益はしばしば同一でなかつたので、政党内でセクション間の妥協がなされねばならなかつた。この意味において、全国的な政党は全国的な政治史が明瞭に示しているように、耐久的な多くのセクションの利益の結合に基づいてのみ形成され得るのである。ホルクウームは、その一九二四年の *The Political Parties of To-Day : A Study in republican and democratic politics* において、アメリカ政党のモザイクにおいて継ぎ合わされている多くの補助的なセミ・セクションを確認するため、色々な時代に二大政党をつくり上げている変化のある多くのセクションの利益の結合を調べ出した。アメリカの政治は、少くともその当時まで、多分に農業政治であつたから、彼は、主要なセクションの農業利益を確認しようとした。例えば、地理的な条件によつて、南部は綿花栽培と決つていた。広大なとうもろこし地帯が、ネブラスカとかアイオワとかイリノイとかインジアナとかオハイオなどの州を通つて広がつてゐる。牧草および牧場地域であるウイスコシンとかミシガンとかペンシルヴァニアとかニューヨークなどの州およびニューイングランド諸州が、別の独特な農業セクションを構成している。とうもろこし—冬麦地帯は、カンサス州のほとんどとミズリー州の南半分とイリノイならびにケンタッキー州の南部の一部とテネシー州の一部と北カロライナ州およびヴァージニア州西部の一部とを含んでいる。そして共和党の勢力は、牧草および牧場地域とかとうもろこし

地帯とかとうもろこし—冬麦地帯などに集結されている。またもつとも堅固な民主党のセクションは、綿花地帯とかフロリダ州から南東テキサス州に至る亜熱帯の海岸地域とかとうもろこし—冬麦地帯の一部などである。このように、彼は、二大政党のおのおのが、多くのセクションの利益から形成されており、かつまた、あるセクションに集中されたそのもつとも信頼し得るしかももつとも忠実な支持をもつていることを論じている。さらにまた、彼は、おのおの政党が勝利を得るためにその要塞から手を延ばしたり惑っている多くのセクションの支持を附加したりしなければならなかつたことをも示している。かてて加えて、彼は、共和党によつてオハイオとかインジヤナとかイリノイなどの州出身者からしばしば大統領候補者の出されたことが、とうもろこし栽培の地域、とりもなおさず、惑っている地域の農民たちにたいしてもつとも効果的なアップルを行うための方策であるとも解釈している。ホルクウームのいうように、おのおのの二大政党はそれ自身の内部に相違した利益をもつ多くのセクションを包含しているが、その政党は、その内部で諸セクションの妥協を行い、大きな勢力のきずなでそれらを結びつけているのである。このように、セクションリズムの政治は、多くのセクションの利益における相異を和解したり、選挙の勝利を得るためにそれらを統一したりする問題であり、同時にまた、ホルクウームの示しているように、優勢なセクションの結合と残余のセクションとの間における関係という問題なのである。^④

これまで述べてきたセクションリズムについての一般化は、暗黙のうちにはセクション内における利益の等質性を仮定していた。あるセクションにおける人々のほとんどが同じ利益をもつならば、おそらく彼らは政治においても一樣に行動するであろう。しかしながら、利益の等質性という前提については、より綿密な分析をする必要がある。事実、現存の状態のもとでは、おのおののセクションは、闘争したりあるいは闘争しなかつたりする利益の異質性を含

んでいるのである。セクションが存在することができしかも政治的な単位として行動し得る前に、これら内部の相違を除くようにしなければならぬ。その外部との闘争のためにセクションの統一は、単にセクション内におけるある一つの利益の優越によつて成し遂げられ得るであらう。この場合、そのセクションの多数の意見が事実少数の構成分子の意志に反するものであると抗議することは、少数グループにとつて無駄なことである。しかし、その他の場合には、セクションの統一を遂げるのに、ある問題について他の多くの利益と和解されるであらう。例えば、一九二〇年代において、関税問題について驚嘆すべき意見の一致が、北部の財界資本家と北部の組織労働者との間に広く行われた。あるいは、セクションの問題そのものが、セクション内部の多くのグループを結合させるという幸な能力をもっているのかもしれない。例えば、前世紀の後期における銀貨鑄造運動 (free-silver agitation) において、鉱業諸州の銀生産者たちはブライアン (W. J. Bryan, 1860-1925) による銀貨自由鑄造の主張に自然的な親和をもっていたのであるが、農民たちも別の理由——僅かなインフレをもという債務者の熱望——によつて銀生産者とか鉱業労働者などと熱狂的に合同し得たのである。^⑧ 多くの場合、議会投票におけるセクションの分裂は、セクションの利益の等質性を反映しておらず、むしろ、特殊な問題にたいするセクション内のあるグループの無関心を反映しているのである。その反面、銀鉱業諸州は、あらゆるグループとか階級などが利益を共有しているというためではなく、銀鉱業労働者多数の人々の関心が比較的に欠乏しているのでこの問題についてセクションの代弁者を支配することができると、銀貨問題について統一を示すことが可能なのである。他方において、若干のセクションの問題についてそのセクション内のほとんどの階級の人々は、擬なき関心を共有することもできるのである。それ故、セント・ローレンス河の水路を開発するという提案において、北東部海岸のあらゆる階級とか、集団とか、利益関係者などが、自らを一様に包

含されたものであると考えるのも当然であろう。多くのセクションの利益の類型と結合している階級の線を横断して利益の共有が行われているということが、アメリカ政治の性格に意味深長な貢献をしているのである。少くともそのもつとも極端な形態において、セクションナリズムは、おのおののセクション内で経済的な階級を結合させる傾向がある。^②他方において、階級的な問題は、セクションの結束を分解させる傾向がある。これらセクションおよび階級という、人々の政治的に組織化され得る原則的な二つの基礎における取捨択一は、もしそれらが、その論理的な推論に従つて行われるならば、両立し得ないし、また、排他的でもある。^③にもかかわらず、アメリカの政治は、階級とセクションとの間における交錯という関係において解釈することが可能であるという点に、その強い特性を見ることができるのである。

いままでに述べてきた要旨は、政党がアメリカの政治におけるセクションの利益の主な代弁者として機能を果しているということであつた。大体において、セクションは、その問題を提出するのに非政治的なアソシエーションとか準政治的なプレッシュア・グループなどに依存する必要があるのである。事実、セクションを構成している選挙区における投票者によつて選ばれた代表者がセクションの熱望の表現に適した機構を見出すことができるので、地理的な代表に基づいている政党制度および政治制度に見出し得ることもできるはずである。従つて、セクションの利益は、地理的な代表に基づいているあらゆる種類の組織や機関すなわち、政党における全国大会(national convention)および全国委員会(national committee)とか、議会とか、州の立法機関などに表現を見つけている。まず、プラットフォームの組み立てにおいて全国大会は、セクションの敏感さを考慮に入れて、それらを衝突させないように努めている。それ故、「全国大会の顔触れの検討は、いかなる全国的な声名をもたない地方政治家によつて完全に議会が

ループが庄倒されているかを示している。大会は地方ボスの領域なのである。」^④ プラットホーム委員会がこの点に失敗すれば大会の場でセクション間の闘争が起るであろう。数度の民主党全国大会における酒類の製造販売禁止に関する論争は、セクション間の闘争の形態をとる傾向があつた。また、一九二八年の共和党全国大会における農業綱領についての論争は、彼らの推挙によるとうもろこし—豚地域の指導者を和解することに失敗したプラットホーム委員会のために起つたのである。大統領候補者の選出においてもまた、セクションナリズムは、その一部を演じている。指名を得ようとする志願者の採用価値における重要な要因は、普通国家におけるあらゆるセクションから支持票を得る能力をもつていること、あるいは、少くともどの重要なセクションにおいても候補者として彼に損害を蒙らせるような経歴をもつていないことである。従つて、候補者の指名のために、「全国大会において用いられた一連の策略のすべては、最後の一秒まで地方における指導者の自由選択と交渉権力 (Bargaining power) を保持するように考慮されている。地方のボスは、州の代表団 (Delegation) を保つため、また、卓越した候補者による多数の累積を阻止するために、「人気」候補者 (“favorite son” candidates) を立てているのである。」^⑤ さらに、政党の行政機関である全国委員会メンバーの任命においてもまた、「委員会は、理論的には全国大会によつて選ばられるけれども、実際には、大会は、ただその大会に派遣された州の代表団によつてなされたその選択を裁可するにすぎない。それ故、州ならびに地方のボスが、稀薄に偽装した手続において、全国委員会のメンバーを任命しているのである。」^⑥ つぎに、議会においては、国家の大きな地理的地域の地位に、有利であろうが不利であろうが、影響をあたえる問題が発生すると、上院ならびに下院議員のセクションの集団化が起つてくる。若干の問題について、きわめて永続的なブロックは、会期から会期へと存続し関係のある地域出身の共和党員も一様に彼らのメンバー・シップに含めている。議会投票の分析

は、おそらく銀鉱業の諸州とか、煙草生産の諸州とか、小麦生産の諸州とか、綿花栽培の諸州などからの代弁者たちによるかなりの投票一致を示すであろう。議会は、顕微鏡的な規模でビジネスを行い、信じ難い多量の特別法を制定して、地方のセクシヨンに貢物 (tribute) を払っている。^③ アメリカ立法の特性として、このように細部にわたる法令で貢物が贈られているだけではなく、「議員が、立法のプログラムにたいして地方ボスたちの同意を得るために彼らの利益 (advantage) のために公的なサービスを売るの止むなきに至らしめられている大統領の公的な名声を犠牲にして、地方政党のボスの利益 (Benefit) になるように連邦政府 (national government) からパトロネージを引き出している。」^④ ように、パトロネージが地方に払われているのである。さらに同じく、州の立法機関においてもまた、共通なセクシヨンの利益をもつ州のある部分からのメンバーは、共有する主張を促進するために、結束するであろう。^⑤ これらの観察は、政党および議会における政党のリーダー・シップが微弱であるという、とりもなおさず、アメリカ政党における権力が分権化されているという事実を暗示するものである。^⑥

- ① H. A. Bone, *American Politics And The Party System*, 2nd ed., 1955, p. 30.
- ② Cf. C. E. Merriam & H. F. Gosnell, *The American Party System: An Introduction to the Study of Political Parties in the United States*, 3rd ed., 1946, p. 79.
- ③ Cf. V. O. Key, *Parties, Parties, and Pressure Groups*, 3rd ed., 1956, pp. 245-6.
- ④ H. A. Bone, *op. cit.*, pp. 30-1.
- ⑤ 中村哲、丸山真男、辻清明編、「政治学事典」、昭和二九年、七八四頁、参照。福武直、日高六郎、高橋徹編、「社会学辞典」、昭和三十三年、五四三頁、参照。
- ⑥ E. E. Schattschneider, *Party Government*, 10th prin., 1959, p. 111.
- ⑦ T. W. Cousins, *Politics And Political Organizations In America*, reprin., 1948, p. 73.

- ⑧ H. A. Bone, op. cit., p. 32.
- ⑨ Cf. V. O. Key, op. cit., p. 247.
- ⑩ Ibid., op. cit., p. 246.
- ⑪ H. A. Bone, op. cit., p. 32.
- ⑫ Ibid., op. cit., p. 33.
- 個人の居住の地理的な位置は、たとえ通例それが単に貢獻的な要素にすぎなうとはいえ、彼の政党加入 (party affiliation) を決定する要素であらう。それ故、ヴァージニア州とかアラバマ州とか南北両カロライナ州などに新しく移つてきた北部の製造業者は、彼らの新しい居住のため、彼らの共和党にたいする忠誠を棄ててこれら州において支配的な民主党のマシーンと提携せざるを得ない。他方において、ヴァージニア州に居住を定めた南部の民主党支持者は共和党の投票者になるべきであらう。(C. W. McKenzie, *Party Government in the United States*, reprint, 1939, p. 230)°
- ⑬ 高木八尺「米國政治史の研究」昭和三五年、二九—三〇頁。M. Farrand, *The Development of the United States*, 1918. 名原・高木訳「アメリカ發展史」昭和三三年、十卷、一三五頁、參照。
- ⑭ V. O. Key, op. cit., p. 248. cf. F. J. Turner, *The Significance of Section in American History*, 1932, p. 36.
- ⑮ Cf. H. R. Bruce, *American Parties And Politics: History and Role of Political Parties in the United States*, 3rd ed., 1937, p. 216; C. E. Merriam & H. F. Gosnell, op. cit., pp. 79-80; C. W. McKenzie, op. cit., p. 231.
- ⑯ 拙稿「アメリカ二党制の特徴と要因について」関西大学、法学論集、第一〇巻、第五号、六七頁、參照。
- ⑰ V. O. Key, op. cit., p. 251.
- また、一九三六年の大統領選挙において、共和党の勢力は振わなかつたけれども、主として北東部セクションは候補者に多数の票をあたえたのである (ibid., op. cit., p. 229)°。
- ⑱ Ibid., op. cit., p. 250; C. W. McKenzie, op. cit., p. 230. cf. A. N. Holcombe, *The Political Parties of To-Day: A Study in republican and democratic politics*, 1924, p. 355; E. M. Sait, *American Parties and Elections*, 1927, p. 151.
- ⑲ V. O. Key, op. cit., p. 252. cf. A. N. Holcombe, op. cit., p. 352.
- ⑳ V. O. Key, op. cit., pp. 252-3.

- ⑲ Ibid., op. cit., p. 253.
- ⑳ Ibid., op. cit., pp. 253-4.
- ㉑ E. E. Schattschneider, op. cit., p. 111.
- ㉒ ホスとは、あらゆるレベルの政治から主としてパトロネージを引き出すために、または、他の私的な目的のために無責任な権力を行使する非公職の指導者を意味するのであるが、これらの多くは、彼らの州においてこそボスであつたけれども、彼らが地方的に支配したその種の全国的規模における結合を成し遂げ得なかつたのである (Ibid., op. cit., pp. 161-2)。
- ⑳ Ibid., op. cit., p. 157.
- ㉑ Ibid., op. cit., p. 156.
- ㉒ Ibid., op. cit., p. 159.
- ㉓ Cf. ibid., op. cit., p. 140.
- ㉔ Ibid., op. cit., pp. 139-40.
- ㉕ V. O. Key, op. cit., p. 255.
- ㉖ アメリカ政党における権力の分権性 (decentralization) は、まず議会における政党リーダーシップの微弱という点に発見することができる。(一) 議会におけるロール・コールは、ローウェルのいう政党投票 (party vote) が稀である。すなわち、困難な問題、普通にはもつとも重要な問題に関して、政党の線は、甚だしくこわれる傾向にあり、他の政党に対立するために政党の体勢を整える純粋な政党投票はルールであるよりもむしろ例外である。とりもなおさず、議会は、ある事柄については一致することもないではないが、普通には地方ボスの支配下にある議員をして各自の好むままに自由にさせている (cf. E. E. Schattschneider, op. cit., pp. 130-2)。(二) 下院において、政党のリーダーシップは、それに反対する立法的な提案を封ずるために、法案が議員席に達する前に迷路のような手統を用いる。すなわち、多数が多くの手統においていい得ないところのものをいい得るけれども、それは、政党のリーダーシップをして容易に積極的な行動をとらしめるようにはなし得ないのである。また、上院において、公的な問題に関する政党の統制 (discipline) はあまりにも非効果的である。政党は大統領によつてもくろまれる公共政策という公的な意図よりもはるかに地方ボスの目的を反映した私的な見解を認めている。パトロネージなどの私的な事柄において、政党の体勢における動揺はだいたいゼロである (Ibid., op. cit., pp. 133-4)。(三) 議会における両院の委員会とか委員長

職にたいする指名が先任制 (seniority rule) の運営によつて自動的に決定されている。その結果、全国的な政党リーダー・シップに同情的でない地方ボスと結合した下院議員とか上院議員などが、政党の立法計画をサポートし得ることが出来る議会における大きな権力の地位に置かれているのである (ibid, op. cit., p. 141)。ときに、政党における権力の分権性は、政党の中央組織における政党リーダー・シップの微弱という見地から観察することが出来る。(一) 全国大会は、職務を処理するにはあまりにも大きすぎるしかつ扱い難いし、また、四年毎にわずかに四、五日しか開会しないし、その上実際に政党を統治しようとは意図されていなかったのである (ibid, op. cit., p. 153)。大会は地方ボスの領域であり、彼らによつて支配されている。とくに、政党における権力を集権化するための媒介手段としての大統領の指名において、地方ボスは、州および地方政党のマシンの子分 (protégés) でありまた全国的な指導者による組織によつて汚されていないしかも政党における権力を集権化しようというあらゆる野心の怪しみがないわばただ地方的な有名人名人にもみ強いえこひいきを示している (ibid, op. cit., p. 152)。(二) 全国委員会は全国大会のように滅多に会合しないしまた開いてもほんのわずかであり (ibid, op. cit., p. 160)、しかもそのメンバーは稀薄に偽装した手続において地方ボスによつて任命されている。(三) 下院および上院の選挙運動委員会 (Campaign Committee) は、それぞれ候補者のために若干尽しているが候補者の選択についていうなものをも有しておらず、また彼らを制する権威をもつていない (ibid, op. cit., pp. 160-1)。普通議会の政党の委員会は、若干の選挙運動費の分配とか印刷物の発布とか演説集編輯局 (speaker's bureau) の運営などより以上には着手していないし、努めて党内の鬭争に加わること回避している。また、それらは、地方政党のマシンの促進したり助言をあたえたり奨励したりする非常勤のサービス機関にすぎないのである (ibid, op. cit., p. 161)。アメリカ政党における権力の分権性は、以上のように、議会および政党の中央組織における政党リーダー・シップの微弱という点において証驗されるのみでなく、後に述べる (本稿、三 セクションナリズムの採用根拠、註④、参照)、地方において強固なボスおよびマシンのため、地方における微弱な政党のリーダー・シップという点においてもまた証驗することが出来る。このようなアメリカ政党の分権性についての詳細な記述は、別の機会に譲りたい。

二 二党制とセクションナリズム

アメリカ政党とセクションナリズムについて

アメリカ政党史のほとんどを通じて二党制が行われてきてゐる。ハミルトン(A. Hamilton, 1757-1804)の連邦党(Federalists)は、ジェフソン(T. Jefferson, 1743-1826)の民主・共和党とも称された共和党と優劣を争つた。連邦党の崩壊および混乱期ののち、クレイ(H. Clay, 1776-1852)とアダムズ(J. Q. Adams, 1767-1848)によつて指導されたホイッグ党とも呼ばれた国家・共和党(National-Republicans)とジャクソン(A. Jackson, 1767-1845)の周囲に集つた民主党とは勢力を争つた。民主党と新しい共和党とは南北戦争を行い、またその後には投票(Tustings)について闘争を続けた。この二元的な政党分割というアメリカの制度的な配列には、少なからずセクションの分裂に責任がある。政党の下に横たわつている特殊なセクションの利益は、この国の確立とともに時々変化した。とはいえ、二元的なセクションナリズムは、疑いなくアメリカ初期の数十年間に永続的な政治習慣を形造るのに大きく助力したし、しかもその後完全に一世紀以上にわたつて政党の二元性に貢献したのである。

元來、二元的なセクションナリズムは、前進を続ける辺境(Frontier)と結合してゐた。近代の大国家のなかで、アメリカは、大陸へと次第に拡がつた人口から生じている特殊なセクションの闘争の類型をもつてゐるユニークなものであつた。長期にわたつて確立された国家はセクションの問題を多少なりとももつてゐるけれども、アメリカにおける西部への移動が長い歴史を通じて特殊な政治的闘争の類型をこの国に存在せしめた原因だつたのである。最初大西洋岸に沿つて植民された地域は、西部の荒原の発展にとつての資本を供給したので、地理的に異つたグループ間に貸主と借主との関係をつくつた。そして、この借主と貸主との間における利益の衝突は、常に、耐久的なセクション間の闘争の根元であつたのである。他の方面で、東部の利益と前進する辺境の利益とは闘争してゐた。すなわち、人口稀薄の農業的な西部は、より人口稠密の財政的にして工業的な東部の利益にしばしば反するものであつた。そして、

あらゆる事柄について東部の支配は、西部の発展によつて脅やかされたのである。いわゆる西部を構成している特殊な地域は境界が前進するにつれて変化したが、そこは常に西部であつた。^①

アメリカ政治における二元的なセクションの闘争の初期的な発生は、憲法の採用に関する論争が境界と海岸との間における対抗の形態をとつたという事実によつて示されている。セクションナリズムの言葉で述べられたりあるいは進められたりした闘争が、しばしば、ある種類に属する利益の基礎的な相違にたいする仮装にすぎないことは、既に触れてきた。C・A・ピアードは、O・G・リビーの説の元唆に従つて著した^②、その古典的な研究である一九一三年の *An Economic Interpretation of the Constitution of the United States* に於いて、憲法の採用に関係している経済的な利益の重要性を示した。そのドキュメントの公式表示と批推に含まれている利益を分類するのに、ピアードは、主としてニューハンプシア州からジョージア州に至る西の開たく地の端にある海浜から奥地に落着いた小農夫たちの重要な階級の存在に注目している。この西部内陸セクションは、海岸の人々の利益に反対のそれをもつていた。小農夫は、彼の土地のためしばしば海岸の投機家に借金を負うていたし、新しく開かれた国土を開発するためその海岸の資本に依存しなければならなかつたのである。西部と東部との間における利益の相違の結果として、多くの負債者を軽減する済崩払い方法 (*easy-money schemes*) とか近代の抵当支払い猶予令 (*mortgage moratorium*) に早くも酷似した負債の徴集を延期する法律などのような東部にとつて不安な立法案が生み出されなければならなかつたのである。それとまつたく異にするものは、主として大西洋海岸に沿つて集結された個人的財産の所有者の経済的な利益であつた。金銭の形態における財産は、西部から発生しているインフレの要求によつて危くされた。公証券 (*public securities*) は額面よりはるかに低いもので売られ、公債 (*public debt*) の所有者は確かに西部の小農夫たちの

間には集結されていなかった。製造業とか海運業などは、工業的な州の間における閥門ならびにそれらの利益を保護しそして促進させる強力な中央政治機関の欠如のため、損害を被つたのである。東部の人々は、強力な中央政治機関の欠如のため、有利に売り得なかつたしあたるいは開発し得なかつた大きな西部の土地のブロックを所有していた。憲法の批准の投票に関する分析を結ぶのに、ピアードは次のように述べている。すなわち、憲法の批准にたいする運動はとくに商業とか製造業とか証券 (security) とか個人などの利益が一般にもつとも大きな勢力をもつていた地域に集中していたので、動産の保有者たちが彼らの利益にたいする勢力と防御を新しい政府に見ていたと結論せざるを得ないのである。批准のための運動における多くの指導者が多数の証券の保有者であつたし、また証券が非常に大きな財産の割合を構成していたので、この経済的な利益は優勢な要素でないにしても、その新しい制度の採用をもたすのに、きわめて重要であるダイナミックな要素を形成したに違いない。憲法にたいする反対は、ほとんど一樣に農業的な地域とか負債者が紙幣や他の減価的な計画 (depreciatory schemes) を明確に述べていた地域などから起つてきたのであると。憲法の採用についての闘争における分裂は、新しい連邦政府のもとにおける政治のなかに投ぜられた。時代は、その最初の偉大な代弁者をジェファソンに見出した成長しつつある西部に味方したのである。ハミルトンの連邦党の権力は主として、より富裕な階級の人々の支持に依存していたし、とくに北大西洋海岸の地域の商業的な利益とかヴァージニア州のタバコ栽培者とか南カロライナ州の米穀栽培者などの結合に拠つていたのである。一八〇一年に、ジェファソンは、共和党の長としてこの結合の権力を破壊し連邦政府の支配を獲得した。ジェファソンは、彼の勝利を得た結合にもつとも強い要素を形成したところのメイン州からジョージア州にいたる奥地の穀類栽培者の大部分を固有のブロックに組織化することに成功したのである。⑦ 以上のように、二党制は、二つの主要なセクシ

ョンの存在によつて誘引されたのである。^⑧ 永続的な対立は、独立せる農業と産業を發達させた商業および財政の活動との間に行きわたつた。この闘争は、本質的にとぎれない整列において、憲法の採用に関する意見の分裂、そして、政党の萌芽期における劈開などと関係のある共通的特徴であつたのである。^⑨

ジャクソンの活発なリーダー・シップのもとに西部の勢力は、東部のそれに反対して、あるいは少くとも東部の資本家に対立して再び統一された。この意味において、ジェファソンおよびジャクソンは、当時の西部セクシヨンの利益の強固な統一の土地の上に彼らの棚を設けたのである。ジェファソンの勝利後五〇年の間、彼が広めた民主主義は、初めの二三州の西部地方においてのみならずあらゆる西部の新しい多くの州においてもまた支持を得たのである。南部を除いても、西北部のオハイオとかインジアナとかイリノイとかミシガンとかアイオワとかウィスコンシンなどの州だけを考へても理會されるであろう。ジェファソンならびにジャクソンの政党は、ペンシルヴァニア州もまた同じく、南北戦争の時代近くまで、すなわち、奴隸制度の禁止がアメリカ史における大きな問題となり、民主党が大きく南部奴隸所有者の支配を受けるようになるまで、これらの州を勝ち取ることができた。しかし、ジェファソンとジャクソンとが東部の権力を破壊して勝利を得たのは、西部の実力をその背後の援助としていたことはいうまでもないが、同時に南部の支持を受けていたことも事実である。南部は古くから奴隸の勞力による綿花とか米穀とか煙草などを主として栽培していた農業地帯であり、農民たちは東部の製造する商品を安く買つて政府からの干渉を極限するのを望んでいた。従つて、南部が、国家の産業として農業の重要性を主張したり政府の權威の増大を危惧したりしたジェファソンの共和党を支持したのは無理もないことである。ジャクソンの民主党の勝利は、南部が土地制度の問題について西部の主張に応援したので、南部の関税反対運動にたいして西部がその協力を惜しまず、かく西部と南部と

提携結合して東部に当りこれを破つて得られたものであつた。けだし、東部が保護関税を支持し低廉な土地払い下げに反対したのにたいして、南部は保護関税に反対し、西部は政府の寛大な土地政策と低廉な払い下げによつて奥地の開発を希望していたためである。^⑩ このような南部と東部あるいは北部との衝突は、綿花栽培が十九世紀の二、三〇年代の頃よりアメリカ最大の産業となり、その必要条件である奴隸制度がこの事実にもなつて重大な問題になつてくると、危険な事態を惹起するに至つた。「自由および奴隸という敵同志の両社会が、おのおの奥地を支配しようとして所有者のない西部の土地に相並んで進軍して行つた。」^⑪ 結果として、西部のジェファソンおよびジャクソンの信奉者たちは、北部と南部との部分に分割されてしまつたのである。西南部は、綿花栽培地帯でありかつ奴隸制度が存在していたので、その経済的な利益が同一である南部と行動を共にした。また、「西北部は鉄道の発達に因つて東北部と商業上の結合が次第に加わり、又該地方発達の歴史上連邦政府に対する感情厚く、且つ大体に於て奴隸制度反対の思想が普及したので、南北協調の道が尽きた時、其の強力なる助力を連邦の側に捧げて大勢に決定を与えたのである。」^⑫ かくして、東部と西部との間における単純な闘争の型相は、北部と南部とのセクションのより複雑な利益の型相によつて取り替えられてしまつた。團結せる西部の崩壊とともに、民主党のヘゲモニーは南部の支配者である農園経営者たちに握られており、しかも、民主党が連邦政府の実権を久しく掌握していたから、一時ではあるが世は永久に奴隸使役者の春かにみえた。しかし、この勢力にたいして奴隸制度の西漸を阻止し、北部よりこの勢力を駆逐する目的のために、新しい共和党がホイッグ党に代つて北部に生れた。共和党および民主党は、たとへ北部あるいは南部の両セクションのいずれの利益からまますます異つたものになつてきたその新しい西北部と西南部の両セクションの利益を充分に助成しなかつたとはいへ、辺境の両セクションにそれらの勢力範囲を拡げ政党としてそれらの優勢を維

持することができたのである。^⑧

南北戦争以後の政党史を通じて、民主党および共和党は、先に述べたごとく、南部セクション対北部セクションのそれよりもさらに複雑になつたとはいへ、大統領選挙およびしばしば州選挙において、それらが頼みとする堅固なセクションの中心部をもつていたのである。アラバマ、アーカンソ、南カロライナ、ジョージア、ルイジアナ、北カロライナ、テキサス、ヴァージニアなどの州は、民主党の指名者に彼らの選挙投票をあたえることに完全なレコードをもつていた。^⑨ヴァーモント州は、南北戦争以来大統領選挙においてその頑固な共和主義 (Republicanism) を一度も変えなかつた。また、メーン州は一八五六年以来 (一九一二年のアブノーマルな年を除いて)、コネチカット州は一八九六年以来、ロードアイランド州は一八六六年以来 (一九二八年および一九三二年を除いて)、マサチューセッツ州は一八五六年以来 (一九二八年および一九三二年を除いて)、ニューハンプシア州は一八五六年以来 (一九一六年を除いて)、共和党の公認候補者に投票した。^⑩ペンシルヴァニア、ミンガン、アイオワ、インジアナ、南ダコタ、ミネソタなどの州は、強力な共和党の偏執を示した。^⑪一九二〇年の選挙において、大統領選挙団体における五三一の投票のうち三七二が選挙に先んじてほとんど決定されていたのである。あらゆるノーマルな選挙運動において、政党のマネージャーは、ある州およびセクションにおける投票の結果を先に予想することができた。^⑫一八九〇年の民主党の敗北 (Cavalane) とか、あるいは一九一二年の民主党の勝利とか、あるいは一九二〇年の圧倒的な共和党の勝利などのような党勢の大変動 (Tandslides) でさえ、これらの予想の価値に実質上影響をあたえていないのである。^⑬共和党は範圍が全国的でなく、南部に一党制が存在するかぎりそのようには望み得ない。これに对照して、民主党はあらゆる州から議員を選ぶことができ、とくに一九三二年の大統領選挙には、北部および西部における共和党の城砦の多くは、民

主党によつて奪われてしまつた。この重要な選挙では二六州が共和党から民主党の後援(column)に変わり、次の選挙では他の四州がこれらに続いたのである。セクションの基礎は、一九五二年の共和党の勝利の年においてすら示された。南部の一一州においてアイゼンハワー(D. D. Eisenhower, 1890-)はステイヴンソン(A. E. Stevenson, 1900-)よりわずかに三〇〇、〇〇〇票少なかつただけであるが、民主党の一〇〇人になりたいして下院にはわずか六人の共和党の候補者しか選ばれなかつたのである。^⑭以上のような二大政党とセクションナリズムとの関係は、二大政党における投票のパーセンテージ分布を示すグラフに、すなわち、地理的な地域における政党支持の強度の変化に浮き彫りにされている。アメリカの政治におけるこの種のグラフに関してもつとも顕著な事実は、それらが相対的に安定しているということである。その型相は、敗北のときにも勝利のときにも、選挙から選挙へと持続する傾向を示しており、政治的な配列において比較的固定した特徴となつている。換言すると、全国通じて二大政党のおおのたいたする民衆支持の分布における不規則を示している政治的な等高線地図がつくり得られるならば、それは驚くほど耐久であろう。いかなる一連の選挙においてもその水線は問題の政党の繁栄とともに上下するけれども、その基本的な型相は、丁度地方の物理的な外形が洪水にあつてもまたかんばつにあつても比較的变化しないように、その政党が選挙に勝利を獲得しようとしまいとにかかわらず、そのまま留まる傾向を示している。^⑮いうまでもなく、その型相の耐久性は、安定せるセクションの配列を反映しているのである。そのセクションの配列が、静止してそのまま留まる傾向を示していると同時に、全国通じて多少一様に影響をあたえる意見の一般的な動静が、セクションの型相を変へることなく、選挙の結果を決定する傾向を示している。この事実を今一つ別の方法で表現すると次のようになる。すなわち、ある州がある選挙において二大政党のいずれか一つにたいする忠誠に従つて記入されると、この等級が、勝

敗の如何にかかわりなく、次のまたその次の選挙においても、ほぼ、持続される傾向にあることを見出し出すであろう。選挙は、全国通じて広く意見に影響をあたえる多くの要因によつて、勝利が得られたりまた敗北されたりする傾向がある。従つて、あるセクションにおける政党得票の減少は、矢張り他のセクションにおける比率した減少と関係があるようである。それ故、ある州において得られた投票のサンプルは、そのまま他の州においてもその傾向があることを示すであろう。これは、政党得票の分布を示しているグラフの形状 (configuration) が選挙から選挙へと繰り返しているという命題に基づいた、政治的な予測に関するありふれた事柄なのである。②とはいうものの、政党得票のパーセンテージ分布から二党制とセクションナリズムとの関連を理解しようとする企てには若干の問題がないでもない。まず、グラフは、短期間においては比較的安定しているが、長期間においては興味ある変形を受けるといふ点である。つぎに、その曲線が著しく凸凹のなかつた、すなわち、政党が全国通じて等しく匹敵ししかもあらゆる州において激しく争つた時代 (普通に二大政党間の均衡がよくとれている時代) があつたのみでなく、(一八六〇年の選挙を除いて) 二大政党がいかなるセクションにおいても完全に抹消されなかつたとはいうものの、先にも述べたように、政党の勢力の分布が州から州へと急激に変化した、すなわち、その曲線が激しく不規則であつた選挙もまたあつたという点である。しかしながら、これらの事実にもかかわらず、二大政党の継続とセクションとの密接な関係は、この種グラフの見地から述べる事が可能なのである。セクションの闘争は、グラフが急激に不規則になるにつれて増加しグラフが凸凹なくそしてスムーズになると減少すると結論し勝ちであるが、セクションの闘争がもつとも強裂であつた南北戦争直前の時代にその曲線がもつとも凸凹がなかつたという事実によつて、この主張には疑問をもたざるを得ない。ホイッグ党と民主党とは、この時代に、あらゆるセクションにおいて比較的に強力であり、どこにおいても比較

的に同じ条件で争うことができた。このデータから得られた結論は、政党戦術が闘争をあいまいにしたり、また、強調したりするということである。南北戦争前のセクシヨンの闘争はきわめて爆発的でありしかも危険であつたから、二大政党は、それを慎重に扱いそしてセクシヨンの利益を損ずることをまったく上首尾に回避したので、その闘争の深みと熱情とを隠べいした。その結果、奴隸制度についての競争は、広く政党の外部にもつていかれたのである。いま一つ別の問題がある。ある都市内の行政区画(wards)あるいは投票地区(Precincts)による二大政党の得票のパーセンテージ分布を示すグラフが作成されると、安定せる型相を形成する同じ傾向がここにもまた現われるということである。このグラフの見地からもセクシヨナリズムは述べられるであろうか。ある都市における投票についての厳密な吟味は、都市における政治的な地域がそのコミュニティ内の富とか支払つた家賃とか生活水準などの分布の型相に合致することを示しているようである。換言すれば、ある都市内の政党勢力に関する分布のグラフは階級的な配列を反映しているのである。従つて、きわめて小さな範囲では、階級およびセクシヨンの配列は同一視され得るように思われる。^②

① V. O. Key, *Politics, Parties, and Pressure Groups*, 3rd ed., 1956, p. 256.

② 「ヒュー教授は彼の『著書』に於て (Geographical Distribution of the Vote of the Thirteen States on the Federal Constitution), 一七八七・八年の反憲法派は一七八五・六年の紙幣派の後身にして、紙幣発行及び債務解放運動の中心地が、反憲法派の根拠地となつたのを指摘した。そして彼等の反憲法的態度を決定せる最重要な一要素が、有産者及び債権者に有利なりと考えられた憲法の経済的規定にあつたと示唆した。沿海の商業階級が、国家の信用と通商と債務者の権利とを確保する憲法に賛成した如く、多く債務者にして貨幣の欠乏に苦しむた奥地の農民達が、諸邦に紙幣の発行と、金銀以外のものを債務返済の法貨となし又は契約上の義務を害する法律の制定とを禁止する憲法上の規定によつて、彼等の利益が侵されたと考えて、主に憲法に反対するに至つた、と云うのである。この示唆に従つて著されたのが、ベアード博士の『合衆国憲法の経済的解釈』である。」(藤原守胤、「アメリカ建国史論」、昭和十五年、下巻、六一一―七一頁)

② V. O. Key, op. cit., p. 257.

④ ビートドは、「憲法の作成および批准の運動に携つた主な人々の資産構成および経済的な背景を穿鑿して、「(一) 憲法作成運動は、「連合規約下で不利益を受けた動産利益の四グループ(金融・公債・製造業及び通商船舶)により主に着手され且遂行された」事。(二) 「憲法を起草せる費府協議会の議員は、少数の例外を除き、新制度の樹立に直接且個人的利害関係を有し、且それから経済的利益を獲得せる者」なる事。(三) 彼等の作成せる「憲法は本質的に、財産の根本的私権は政府に先だちて存在し且道徳的に人民多数の触れ得ざるものであるとの觀念に基礎を置く経済的文書」なる事。(四) 「諸邦の批准協議会に於て憲法を支持せる領袖等は、費府協議会の議員と同一の経済的グループを代表し、彼等も均しく直接且個人的に、彼等の努力の結果に利害関係を有した」事。」(藤原守胤、同書、六一七頁。cf. C. A. Beard, *An Economic Interpretation of the Constitution of the United States*, 1913, pp. 324-5) を挙ぐべし。

⑤ V. O. Key, op. cit., p. 258. cf. Beard, op. cit., pp. 290-1.

しかしながら、リビーとかビートドのように、この分布を憲法の経済的な規定にのみ帰するのは、このような分布に大いに貢献した他の重要な要素を無視することになる。「西部(奥地及び開拓線)が沿海東部に対し常に嫉妬・不信及び反感を抱き、且その比較的孤立せる特殊な開拓線的环境から偏狭な地方心・自治及び不羈独立の精神が遠隔からの中央集権的支配に対する猜疑心と共に特に発達した……この見地からだけでも、諸邦の西部地区は、彼等の歴史に於ける未曾有の中央集権的企図に反対する十分な理由を持つていた。更に又、奥地は新聞及び郵便その他の通信機関に欠き、外部の事情に疎く、連合規約治下の財政的・通商の混乱には殆ど与り知らなかつた。従つてこの地域は、現行の連合制度に最も満足し、その改革の必要を感じることも最も少かつたのである。」(藤原守胤、同書、六二〇頁)

⑥ ハミルトンは、強力な中央政府の必要を察知したもつとも初期の人々の一人であつたし、また、それをもたらした指導者の一人であつた。かくて、彼は、資本家階級との同盟によつて政府を支配し強力にするために自由を従属せしめ勝ちであつた見解に達したのである(T. W. Causens, *Politics And Political Organizations In America*, reprint, 1948, p. 86)。ハミルトンの支持者は連邦党という名を保有した。J・A・ダムズに彼らの理想をいわせるならば、「金持で生れのよい有能な人々」の支配であつたのである。彼らの勢力はより商業的な諸州の資本家階級にあつた。……連邦党は、シェファソンの支持者である共和党がその権威の外側に多くの重要な事柄を置くことによつて連邦政府を弱体化せしめるいわゆる憲法の「厳しい解釈」を好んだのに、

アメリカ政党とセクシヨナリズムについて

その政府の権力を伸長させる「緩い解釈」に賛成したのである (ibid, op. cit., pp. 87-8)。

- ⑦ V. O. Key, op. cit., p. 258. cf. A. N. Holcombe, *The Political Parties of To-Day: A Study in republican and democratic politics*, 1924, p. 83.

アメリカ合衆国独立宣言 (Declaration of Independence) とかヴァージニア州における種々の進歩的な法令などの起草者としてのジェフソン^{Jefferson}の仕事は、すべて自由の立場であつた。……彼は、かつてないきびしい民権の支持者になり、そして農民階級に国家の眞の勢力があるという信念をもつていたのである (T. W. Cozens, op. cit., p. 86)。ジェフソンの支持者は、主張された彼らの敵対者の君主政治的にして貴族政治的な傾向に反対して、抗議した。彼らは、数においてはまだ比較的重要なでなくまた財産の条件によつて投票することが大きく妨げられていた都市の労働者集団から若干の援助を得て、主として農民階級にある彼ら自身の勢力で資本家の同盟をくい止めたのである (ibid, op. cit., p. 87)。

- ⑧ しかしながら、初期的におけるそれを除いて、セクシヨナリズムは、政治において重要な役割を演じたが、政党的創始 (Genesis) を用意するものとしてではなかつた。セクシヨナリズムは、個人的な政党加入を決定するけれども (cf. H. A. Bone, *American Politics And The Party System*, 2nd ed., 1955, p. 33; C. W. McKenzie, *Party Government in the United States*, reprint, 1939, p. 230)、「政党的創造」なのである。例えば、西部から農民運動 (agrarian movement) とか緑背紙幣党 (Greenback party) とか人民党 (Populist Party) とか農民—労働党 (Farmer-Labor party) などが起つたけれども、これらでさえ、それらのプログラムを狭く限られたセクシヨンおよび階級の利益に制限したので、失敗したのである。若干の地域は、二大政党の一つによつてほとんど排他的に支配されているが、どちらの政党もそれらの地域に限定していない。而大政党は範圍およびアップビー^{Upbeat}ルにおいて全国的なのである。事実として、セクシヨナリズムは、共和党の保護関税とニュー・イングランドの製造業の利益とか民主党と南部の人種の問題などのように、ある特殊な地方化された問題と結合したときにのみ、アメリカ政治において顯著であつたのである (H. R. Bruce, *American Parties And Politics: History and Role of Political Parties in the United States*, 3rd ed., 1937, pp. 62-3)。

- ⑨ 拙稿「アメリカ二党制の特徴と要因について」、関西大学、法学論集、第十卷、第五号、八四—五頁、参照。

- ⑩ 「農民の地方である米国西部は終始一貫して土地の廉価なる払下げ、進んでは土地の無償の下附を望んだ。然るに工業中心地であつた東部は其の工場に必要な低廉の労働者が、獲易き土地に誘われて西方に移動することを惧れたが故に、土地を自由に

- 分配し若しくは廉売する政策には反対であつた。南部は奴隷制度を基礎とする大農の地方であつた故に、東北部の常に出張する高率なる保護関税政策には反対であつた。それは南部は土地の問題に關しては敢て西部の要求を拒まず、寧ろ西部と此の點に提携して中央政界の強敵東北部に対抗せんとする意嚮も屢々あつたが、一方に於ては自由小農による西方地方の移住先占は、同地方に對する奴隷制度の傳播の障礙となるといふ事情があつたため、茲に難問題を感じた。此の如く利害相異なる米国の三大地方(Sections)が、夫々自己の地方的利益を擁護し、伸張せんとして、其の代表者が中央の政界に覇を争つた。土地、関税、大陸内地開發の三大問題を初めとして諸問題が、纏繞し相牽制し、三地方の間に、或は提携或は拮抗の勢が生じたのである。」(高木八尺「米國政治史の研究」昭和十五年、一三六—七頁)
- ⑮ V. O. Key, op. cit., p. 259. cf. F. J. Turner, *The Significance of Section in American History*, 1932, p. 27.
- ⑯ 高木八尺、同書、三六頁。
- ⑰ V. O. Key, op. cit., p. 259. cf. V. B. Boothe, *The Political Party as a Social Process*, 1923, p. 45.
- ⑱ 一九〇〇年と始まる一四回の大統領選挙の結果、この州が失敗したのは、この二回の選挙(H. A. Bone, op. cit., p. 288)。
- ⑲ H. R. Bruce, op. cit., p. 217.
- ⑳ H. A. Bone, op. cit., p. 289.
- ㉑ H. R. Bruce, op. cit., p. 216.
- ㉒ C. E. Merriam & H. F. Gosnell, *The American Party System: An Introduction to the Study of Political Parties in the United States*, 3rd ed., 1946, p. 80.
- ㉓ H. A. Bone, op. cit., p. 289.
- ㉔ Cf. E. E. Schattschneider, *Party Government*, 10th prin., 1959, p. 113. fig. 4.
- ㉕ Ibid., op. cit., p. 112.
- ㉖ Ibid., op. cit., pp. 112-4.
- ㉗ Ibid., op. cit., pp. 114-5.
- ㉘ Ibid., op. cit., pp. 115-6.

三 セクシヨナリズムの採用根拠

ワシントン(G. Washington, 1732-92)によつて、「わが連邦を妨害するおそれのある原因を熟考してみるに、まず念頭に浮ぶ重大なる問題は、北部と南部、大西洋岸と西部という、地理的区分によつて特徴を有する党派の生れ出る何らかの基盤が今後作られ、それによつて、何ごとかを企む野心家が、現実に地方的利害と見解の相違があるという信念を、人に呼び起そうとするのではないか、という点である。特定の地域内に勢力を獲得しようとする党派が用いる策略の一つは、他の地域の意見や目的を詐つて伝えることである。このような虚欺の喧伝から起る嫉妬や怨恨に対して、諸君はいかに自己を固く守ろうと、守りすぎることはない。このような野心家は、同胞愛によつて一つに結ばれているべき人々を、互に疎隔せしめようとする。」^①のであると恐俱された、排他的であるセクシヨナの政党は、いかなるセクシヨンも他のセクシヨンの援助なくして、かつて政治の支配を獲得するのに充分に強力ではなくあるいはまた充分に凝集性をもつていなかった。形成されなかつた。政治的な組織の基盤として、セクシヨナリズムは、比較的限られた範囲内においてのみ遺憾なく採用され得るのである。セクシヨンの指導者は、ほとんどあらゆる他の少数政党の指導者のように、常に孤立されることを回避しようとしてきた。なぜならば、一度セクシヨンが孤立されると、それが非効果的になるからである。これがセクシヨナリズムの第一の限界である。つぎに、セクシヨンの統一は、政治的にある点をこえるまで採用されないと充分でないという事実である。おのおののセクシヨンにおけるいくらかの州は、そのセクシヨンの政治的な中心の近くにあるが、對抗する領土の地域によつて囲まれている。セクシヨンの闘争におけるいくつかの惑つているそしてどつちつかずの州は、多くの点でセクシヨンの配列をくつがえすほど

に大きい。セクシヨナリズムは、一つの傾向であつて、正確に遂行される政治的な術策ではない。先にセクシヨナリズムを定義したのであるが、セクシヨンの境界を明らかにしようとするあらゆる企ても、ホルクウームのように、多くの比較的に小さな地域の記述とか、あるいは、原則にたいする例外がその概念の意味を破壊するほどに数多いということの発見とかに終るであらう。セクシヨンの型相は実際ひどく曖昧なものである。これが、セクシヨナリズムの第二の限界である。

セクシヨナリズムには、以上のような二つの大きな限界があるにもかかわらず、アメリカにおいて、セクシヨンの政治組織の類型が採用されているのは如何なる理由に基づくのであろうか。まず第一に、その取捨択一を検討する必要がある。もし政治が、セクシヨンの基盤において組織化されていなければ、明らかな取捨択一は、階級的な配列である。しかしながら、階級的な政治の基礎が、セクシヨンの配列を形成する試みよりも、はるかに大きな困難を示していることを説明することは容易である。選挙に勝つためには十分の大きさであり、かつまた扱うのにも大き過ぎない社会階級を見出すことは、容易なことでない。もしその階級が、小さ過ぎると、それに基づいた政党は、永久的な少数党になるであらうし、また、もしそれが、大き過ぎると、それ自身のランク外の反対党を恐れないので、内部分裂を起すことは必定である。さらに、あるセクシヨンの全勢力を動員することが困難であるように、いかなる階級も全勢力を動員することは困難なのである。セクシヨンの政治に代る十分な替え玉を発見することの困難は、セクシヨンの組織の基盤が相対的に有利であると思わしめるのに充分である。^⑧ 地方政党のボスがその決定を行うものと想定すれば、問題はいかなる取捨択一が望まれているかである。すなわち、(一) 右に述べた理由でなければ、セクシオンにたいしてセクシオンを配列させるという闘争が、そのセクシオンの統合を促しているのか、あるいは、

(二) セクシヨンの線にかかわらず全国を通ずる階級の闘争、すなわち、セクシヨンの闘争を放棄して、階級をしてセクシヨンの線を横断する統合をなさしめているのか、である。地方政党のボスは、内部の敵と闘うために選挙区を分割するよりも、むしろ遠隔の敵と闘うために選挙区を結合するであろう。セクシヨンの亀裂が深ければ深いほど地方政党のマシンは固く打ち立てられるであろう。すなわち、セクシヨンの闘争が一党制の地域を生むならば、これらの地域における地方ボスは、そのマシンの有利な立場が圧倒的であるその政党内においてのみ挑戦され得るのであり、そして総選挙においてその政党外からの反対党によつて決して挑まれないのである。全国的な政党の指導者は、もしその政党を支配し得るならば、セクシヨンの闘争を都合よく無視して階級的な相違を取り得るであろうし、あるいは、これらの戦術によつて勝利の機会をもち得るであろう。しかし、地方の指導者は、地方にたいして地方を配列する地理的な政治の型相を選ぶのである。それ故、セクシヨナリズムが行きわたつてゐるのは、地方において強固なボスあるいはその支配するマシンのため、地方における政党のリーダー・シップが微弱であるという、すなわち、アメリカ政党の権力が分権化されているという事実に関連してゐるのである。いま一つ別の方法でいえば、地方政党のボスが国家、州そして地方の政治を結合させているという事実から眺めると、地方のマシンにたいして州や地方のパトロネージの支配を保証しているセクシヨ的な配列は、たとえ彼の政党が全国的な選挙に敗北するとしても地方のボスに有利であろう。地方のボスに関するかぎり全国的な政党の勝利は望ましいが、それは第一の切実な要求ではない。疑いなく南部の諸州における民主党のボスは、第一に民主党の地盤である南部諸州の政治にのど輪(strangle hold)を維持したのである。彼らは、彼らの地方的な権威が保証されてゐるときのみ、全国的な政治に関心をもつようになるのである。^⑤

第二に、セクション内ではいかなる州においても投票の一〇〇パーセントを動員することが不必要であるという点である。五〇パーセントにわずか越えるものでいかなる州あるいは都市におけるいかなる選挙にも勝利を得るのに充分である。これが、セクション的な政治の組織をして、他のいかなるものよりも、相対的に活動をより容易にしより経済的なものにせしめているのである。階級的な政治の組織において選挙を勝利に導くのに必要な程度の動員を獲得することは困難である。ある社会階級が選挙母体の五五パーセントしか包含していないならば、その階級の九〇パーセント以上を動員することが必要であるけれども、それはまったく稀有であるといつてもよいほど困難なことである。階級が選挙母体の八〇パーセントを含んでいならば、勝利を得るためにはその六二パーセント以上動員する必要がある。この程度の動員ならばなし遂げられるであろうけれども、ある政党がある階級のわずか六二パーセントの支持を獲得し、その階級の残りの三八パーセントが反対党を支持する場合にも、階級的な配列が打ち立てられたとい得られるであろうか。その階級が全選挙母体を含むとき、すなわち、それがまったく階級でないときのみ、ある政党は五〇と少し加えたパーセントで勝利を得られるであろう。しかしこの場合には階級的な配列がゼロであることはいうまでもない。社会集団の不完全な政治的動員という法則は、政治的な戦略におけるセクション的な類型でも階級的な類型でもともに等しく適用するのであるが、その効果が異つているのである。それは、階級政治を困難ならしめるけれども、セクション政治を容易ならしめるのである。なぜならば、セクション的な政治は、既述のように、五〇パーセントをわずか越える動員で引き合うからである。^⑥

第三に、セクション的な政治組織の類型的な有利な立場が、連邦制度 (Federal system) と関連しているということである。大統領選挙団体 (electoral college)、とくに大統領選挙団体における連邦的な要素は、セクションの基盤に

組織化された政党に特別の利益をあたえている。大統領が民衆投票、すなわち、全国的な幅の投票所における民衆投票の総数に基づいて直接に選ばれるならば、セクション的なアッピールの有利な立場は実質的に減少されるであろう。^⑦ 大統領選挙において、民衆は、州ごとに投票することによつて、州幅の公認選挙候補者名簿に基づいて大統領選挙人を選ぶ。この種の選挙においては、どの州においても比較多数の民衆投票を得ている政党が、その州における選挙人の投票のすべてを獲得する。この理由のために、政党は、大統領選挙団体の多数、すなわち、二六九人に達するまで、等しい大きさではなくてもつねに堅実な一連のブロックを蓄積することに関心をもっている。誰も全体の民衆投票には関心を払っていない。単位として行動する州の一群を形成することができるとしてなされたいかなる種類の政治的なアッピールも政党のマネージャーにとつては魅惑的である。南部諸州における選挙人の投票を確信して計算し得る民主党は、常に勝利の範囲内にある所以である。さらに、民主党は、その地方における本質的な離反(disaffection)にもかかわらず南部諸州の忠誠を計算し得る。それは、南部の全般的な支持を必要としないのである。大統領選挙は、努力の比較的な節約ですむ補助的なセミ・セクションの基盤で勝利が得られるであろう。すなわち、セクション的な政治は、そのセクションを孤立するところまで押しつけさえしなければ、有利でありかつ容易でもある。^⑧ 大統領選挙は、あるものは大きくあるものは小さい五〇のブロックで行われているゲームであり、最初に二六九という得点を得た者によつて勝利が占められる。選挙人の投票は、州の代表団(state delegation)より小さな単位では得られないけれども、州よりもはるかに大きな単位すなわちセクションとかあるいは連らなつて行動する州の結合などによつて得られるであろう。このゲームを、大統領が居住地の如何にかかわらず諸階級にアッピールすることによつて直接民衆から選ばれるかのように、また、州の線がないかのように、行うことは馬鹿げている。選挙に

勝つことによつて生計を立てている実際的な政治家は、理論的な階級配列の基盤で民衆を分類することに時間を浪費しない。彼らは、二六九に達するのに充分な選挙人の投票をもつている州の数をあつめることに専念している。選挙日に投票する選挙母体を加えて五〇パーセントに達する州内のいかなる投票者の結合でも充分なのである。この目的のために必要な数を蓄積するのに、政治家は、熱望せる結果を得るために、階級的なおよびセクシヨンのなアップピールを含んでいる、たとえこれらのアップピールが矛盾するときですら、あらゆる種類のアップピールを行うであろう。彼らが州とか地方の選挙は勿論全国的な選挙にも関心をもつていゝという事実から見ても、政治家は、セクシヨンのなアップピールが階級的なアップピールよりも安全でありかつ容易であると結論する傾向にある。これは、まさに実際的なビジネスにおける実際的な利益なのである。^①

① D. W. Overton, *Documentary History of the United States*, 1950. 立教大学アメリカ研究所訳、「アメリカ政治思想の系譜」昭和二五年、一六一—二頁。

② F. E. Schattschneider, *Party Government*, 10th prin., 1959, p. 116.

③ *Ibid.*, op. cit., p. 117.

④ 地方における中央政党组织の微弱を明らかにしている、「アメリカ政治のローカリズム (localism) は、全政治制度——議員、公務員 (public officers)、合衆国検事 (United States attorneys)、合衆国執行官 (United States marshals)、租税の徴税官 (collectors of internal revenue)、連邦判事 (federal judges)、州および都市の職員 (officials) など——を任命ならびに選挙による人事の面で、地方居住 (local residence) を必要条件として組織化している (*ibid.*, op. cit., pp. 142-3)」。その結果、(一) 地方ボスの支配するマシーンは、その掌中で地位を獲得するための競争の領域を厳しく抑制し、政治的な前進の道の独占を確立している。それ故、野心ある者は、議会に選らばれようと欲するならば、地方ボスのもとに行かざるを得ないし、また、連邦とか州とか地方などの政治における地位に任命されたりあるいは選挙されたりするようにするには、地方ボスから寵愛を受ける人 (*persona grata*) にならねばならぬ (*ibid.*, op. cit., pp. 145-6)。また、(二) 地方ボスの支配下にあるマシーンは、政治的な前進

の道を独占するかぎり、同じ地域における他の地方組織とか、他の地域における政治組織ならびに地方組織などによる侵入の一切の企てにたいしてその地方 (Locality) の支配を維持している。地方政党的のマシンは地方のものとして残存しているから、中央の政党的における上部構造 (super structure) は容易にくへり得られないのである (ibid. op. cit., p. 147)。ちよびまた、(三) 地方ボス支配下のマシンは、その地方の支配を確保しているから、中央政党的のリーダー・シップによつてスポンサーされた各地域における新しいライバル的な組織の創立、すなわち、上部から地方の勢力範囲への侵入を禁止している (cf. ibid. op. cit., pp. 148-9)。(四) 地方ボスは、全国、州、そして地方というあらゆるレベルにおけるアメリカ政治に入りこんでいるので、下部からの攻撃、すなわち、その区域におけるパーチザンの隊伍によつて破壊されない。かくて、地方ボスは、あらゆる方面からの攻撃にたがらしてきわめて完全に要塞を築いているように思われる (cf. ibid., op. cit., pp. 150-1)。

- ⑥ Ibid. op. cit., pp. 117-8.
- ⑦ Ibid. op. cit., p. 119.
- ⑧ Ibid. op. cit., pp. 119-20.
- ⑨ Ibid. op. cit., p. 120.
- ⑩ Ibid. op. cit., pp. 120-1.